

# TKK 3450/3850形 3452F 最晩年タイプ

Nゲージボディ3両未塗装組立キット

## 組立説明書



### 製品概要

TKK3450形は、1931年～1936年の間に、日本車輛製6両・川崎車輛製44両の計50両が製造されました。

各種更新を受けつつ平成元年まで走り続けたため、その外観形態は多岐にわたっており、“1両として同じ仕様の車両は存在しない”とまで言わしめたバリエーションの豊富さも人気の一つです。

多くの車両が様々な組成で活躍しましたが、晩年は日車製デハ3452を先頭にデハ3451・3850形クハ3861を連ねた3452F3連が組成され、引退直前にはリバイバル旧塗装が施されて人気を博しました。

nano factoryでは、デハ3450や3499といった両運転台車をリリースしていましたが、新たにデハ3452+デハ3451+クハ3861で組成される3連の最晩年の姿を選定して、3Dプリントにて皆様にご提供いたします。

未塗装板状キットですので、TKKデハ3450としてはもちろんのこと、細部加工で他の車番に改造したり、切り継ぎ等の加工で往年の各社旧型車を再現したりしてお遊びいただけます。

### 製品仕様

製品名：TKK 3450/3850形 3452F 最晩年タイプ  
Nゲージボディ3両未塗装組立キット

数量：TKK 3450形 2両分、TKK3850形 1両分  
(デハ3452×1、デハ3451×1、クハ3861×1)

車体	屋根	床板	台車 ※一部 付属
床下 機器	ダミー 連結器	屋根上 機器	動力化 対応

内訳：

#### デハ3452：

- a. 前面：1
- b. 妻面：1
- c. 側板：2
- d. 屋根板：1
- e. 床板：1
- f. ATS受電器：1
- g. ATS受電器受：1
- h. ジャンパ線：1

#### 共通予備パーツ：

- x. 前照灯予備：2
- y. 前照灯枠予備：2
- z. 幌枠予備：2
- aa. 渡り板予備：2

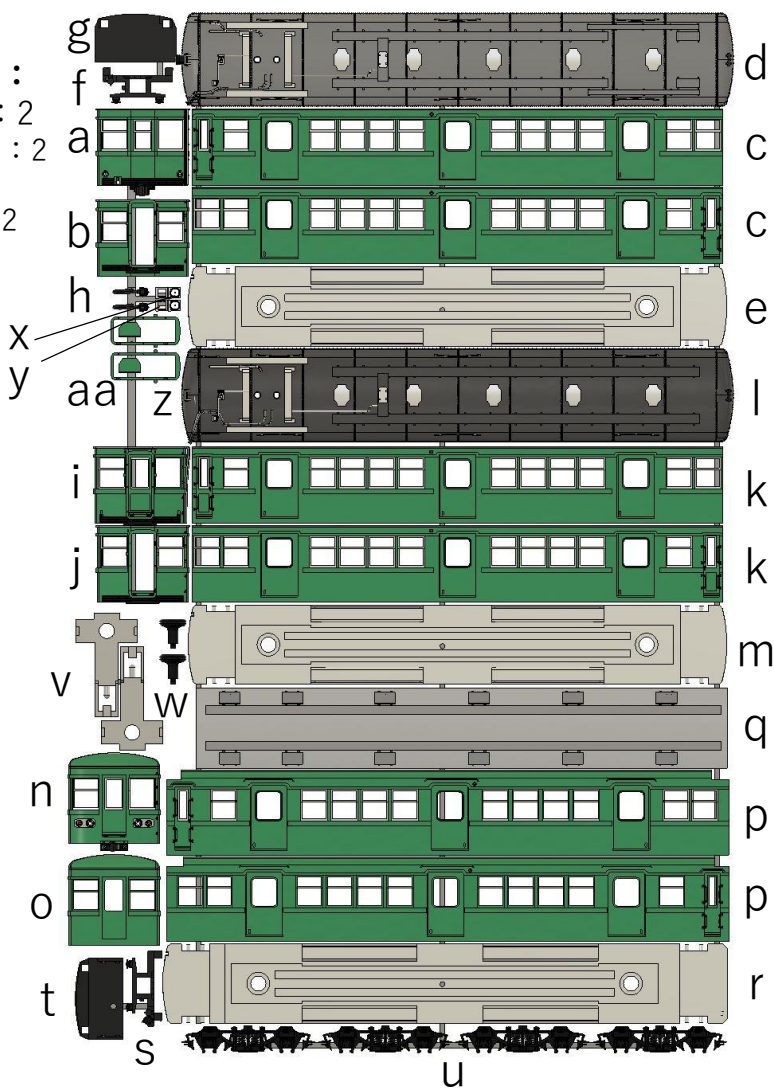
#### デハ3451：

- i. 前面：1
- j. 妻面：1
- k. 側板：2
- l. 屋根板：1
- m. 床板：1

※予備パーツは  
破損した際に  
ご使用ください。

#### クハ3861：

- n. 前面：1
- o. 妻面：1
- p. 側板：2
- q. 屋根板：1
- r. 床板：1
- s. ATS受電器：1
- t. ATS受電器受：1
- u. YS-T1台車枠：4
- v. ボルスタ：2
- w. 台車中心ピン：2



### 別途必要品：完成には下記の弊社別売品及び社外品が必要です

- ・床下機器：nano factory TTK3450/3850形 3452F床下機器セット※又は社外品要工夫
- ・台車：GM D-16台車：2両分4個※
- ・車輪：Φ5.6絶縁車輪：4～12個※
- ・動力ユニット：トミーテック 鉄道コレクション 17m級動力台車 TM-05R
- ・GM PT42Nパンタグラフ 又は TOMIX PG16形パンタグラフ：2個
- ・窓ガラス用透明板：透明塩基板・プラ板切出、前面3・側面6・妻面3
- ・車体表記インレタ：1(トレジャータウンTTL803-11東急3000系標記 推奨)

※床下機器及びデハ3452・3451の台車は、弊社別売品の”TKK3450/3850形 3452F床下機器セット”を使用するか、GM既製品を使用するか、お客様でお選びいただけます。  
詳しくは、”TKK3450形 3452F床下機器セット”の説明をご覧ください。

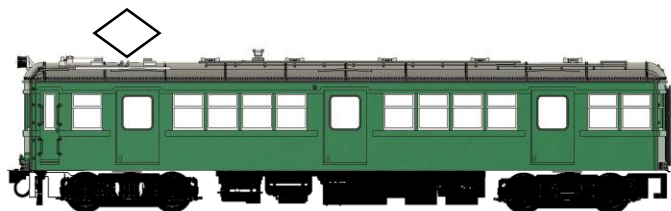
## 製品外観

製品名：TKK 3450/3850形 3452F 最晩年タイプ  
Nゲージボディ3両未塗装組立キット

数量：TKK 3450形 2両分、TKK3850形 1両分  
(デハ3452×1、デハ3451×1、クハ3861×1)

←目黒・五反田

蒲田→



デハ3452



デハ3451  
(動力ユニット対応)

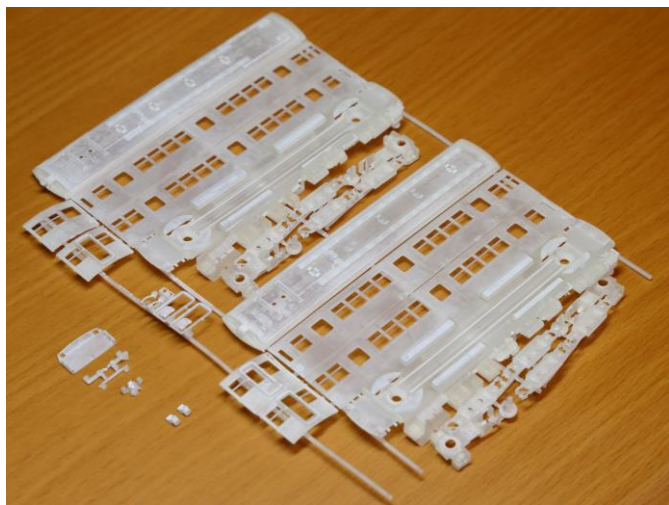


クハ3861

## 納品状態

※写真は試作品です

床下機器、日車BW台車枠は付属しません(別売対応)



製品外観 形式写真

※写真は組立例です



Mc デハ3452



M デハ3451



Tc クハ3861

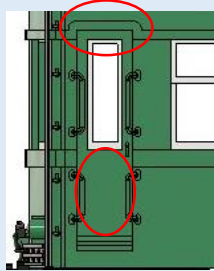
## 組立図

←目黒・五反田

蒲田→

### Mc デハ3452

乗務員扉上ヘッダー高・  
乗務員扉鉄製



デハ3452屋根板  
(予備パンタ台有)

妻面

側板デハ3452左側  
(乗務員扉上ヘッダー高・  
乗務員扉鉄製)

※台車・床下機器  
別売

床板

デハ3452前面

ジャンパ線

側板デハ3452右側  
(乗務員扉上ヘッダー高・  
乗務員扉鉄製)

ATS受電器組立

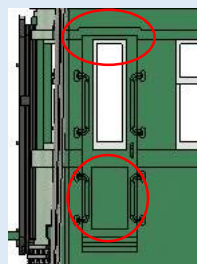


デハ3452ATS受電器受

デハ3452ATS受電器

### M デハ3451 (動力ユニット対応)

乗務員扉上ヘッダー低・  
乗務員扉木製



デハ3451屋根板  
(予備パンタ台無)

妻面

側板デハ3451左側  
(乗務員扉上ヘッダー低・  
乗務員扉木製)

※台車・床下機器  
別売

床板

デハ3451前面

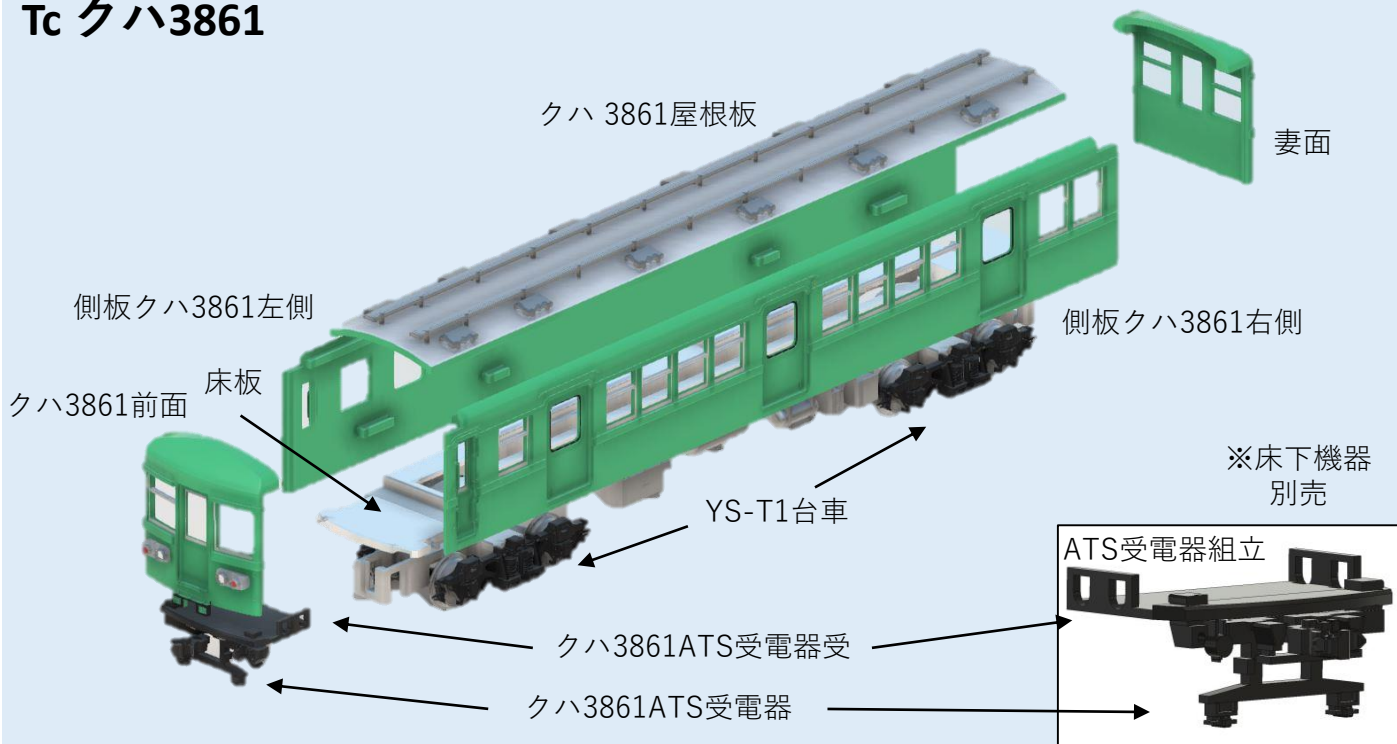
側板デハ3451右側  
(乗務員扉上ヘッダー低・  
乗務員扉木製)

## 組立図

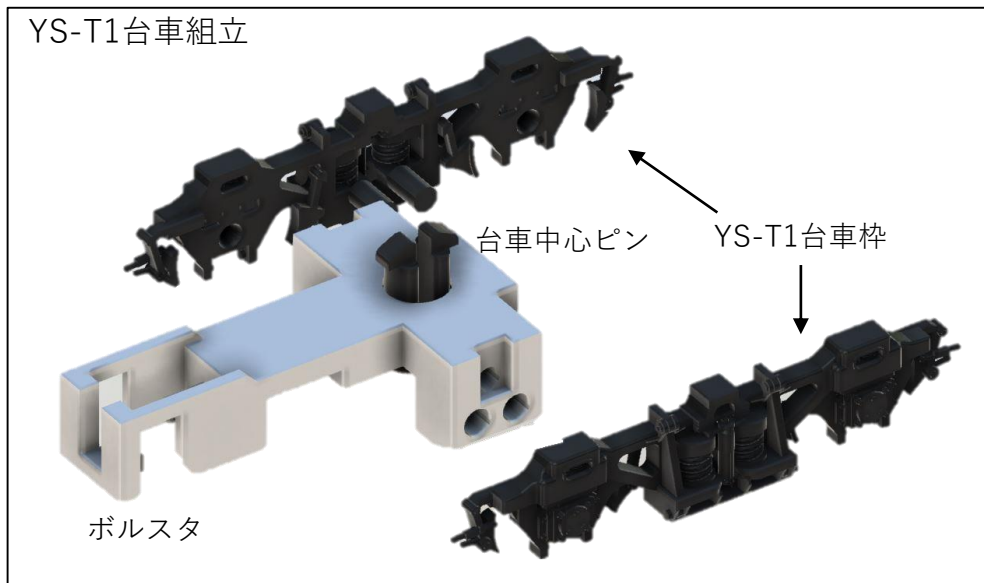
←蒲田

目黒・五反田→

### Tc クハ3861



#### YS-T1台車組立



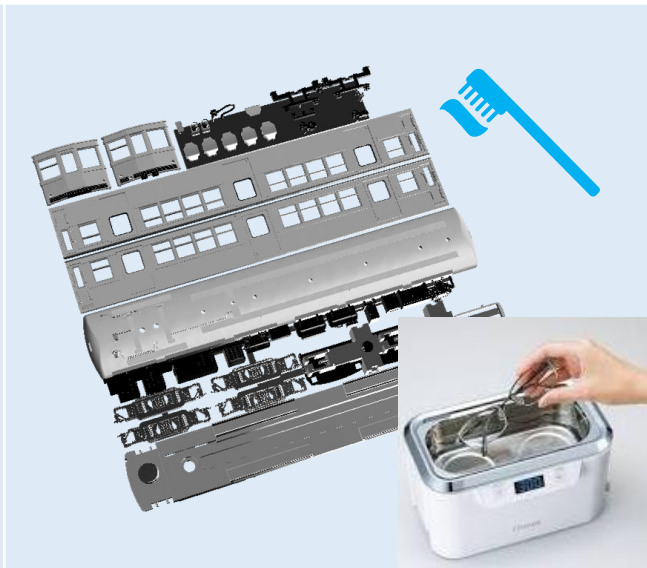
## 組立説明・手順 (TKK3450/3850形 共通)

### 1. 全てのパーツを中性洗剤で洗浄します

パーツ表面の油分を取り除き塗料の定着を良くします。

このとき歯ブラシを使用し、ぬるま湯で丁寧に擦るとよいでしょう。

超音波洗浄器を使用すると、入り組んだ場所まで綺麗に洗浄できます。

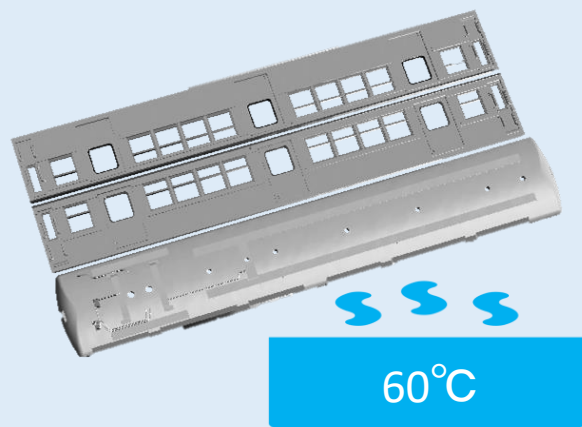




### 2. 反りのあるパーツは60℃程度のお湯に浸し、手で矯正します

ボディや屋根板など、細長い板状のパーツは反りがある場合があります。軽微な反りはボディ接着の過程で矯正されますが、強い反りは60℃ほどの熱湯に浸すか、平板にヘアゴム等でプリント品を固定し、ドライヤーで熱することにより事前に矯正することができます。

熱湯を使用する際はやけどに十分ご注意ください。

また、高温すぎると変形の原因となりますのでご注意ください。



  やけどに注意

### 3. 積層痕形目立つ場合は、紙やすりで削ります

ボディ前面・妻板の曲面や屋根板などの曲面・勾配がつく箇所は、3Dプリントの特性上積層痕と呼ばれる木目のような凹凸が発生します。

そのような箇所は、#600～#1200程度の紙やすりで削り平滑にしてください。

削りすぎてディテールを損なわないようご注意ください。



## 組立説明・手順 (TKK3450/3850形 共通)

### 4. ボディ4面と屋根板を瞬間接着剤で接着します

3Dプリントの亚克力素材はプラモデル用接着剤では付きません。瞬間接着剤またはゴム系接着剤を使用します。

瞬間接着剤は、ゲル状の遅乾タイプを使用すると位置合わせが楽になります。

また、瞬間接着剤は白化現象が生じますので、塗装後や透明パーツに使用する場合はゴム系接着剤か、白化防止タイプの接着剤を使用するとよいでしょう。



似た形状のパーツが複数ある場合があるので注意して接着します

### 5. 全てのパーツにサーフェイサーを吹き付けます

3Dプリントの亚克力素材は半透明なため、サーフェイサーで下塗りし透けを防止します。

ヘッド・テールライトレンズ部はマスキングゾルで保護し、全塗装後にマスキングを剥がして最後にクリア塗装することで、亚克力樹脂の透明性を活かしたレンズ表現が可能です。

サーフェイサーは#1000～#1200のスプレータイプがよいでしょう。

小さな付属パーツ類は特にディテールが埋まりやすいため注意します。



⚠ 溶剤の吸飲に注意

### 6. 屋根部分をマスキングし、ボディを塗装します

塗装方法は様々あるため、お客様のやりやすい方法で塗装してください。

旧塗装はネイビー+クリーム、後年はライトグリーンでした。

屋根色はサーフェイサーの色がジャストなのでそのまま適用しています。



⚠ 溶剤の吸飲に注意



## 組立説明・手順 (TKK3450/3850形 共通)

### 7. 床下機器や台車、各種パーツを塗り分けます

床下機器・台車・ジャンパ線・ATS受電器・連結器・連結器胴受け・ヘッドライト側面は黒で塗装します。

また、幌受と渡り板は車体色と同色に塗り分けます。



細かいパーツの塗り分けはランナーについたまま行くと簡単です

### 8. ボディに色を差します

窓サッシに銀、ドア窓Hゴムに黒、テールライトにクリアレッド、アンチクライマーに黒をそれぞれエナメル塗料で色差しします。

窓サッシとドア窓Hゴムに色差しする際は、烏口を使うと便利です。

はみ出した箇所は、ボディの下地を傷つけないようエナメル溶剤を染み込ませた綿棒や爪楊枝で丁寧に拭き取ります。



烏口にエナメル塗料を垂らし毛細管現象を利用して色を差します



### 9. 窓ガラスを接着します

窓サイズに切り出した透明なプラ板や塩ビ板をボディ裏からゴム系接着剤で貼り付けます。

普通の瞬間接着剤は白化現象により透明パーツを白く濁らせてしまうので使用しないようにしましょう。



## 組立説明・手順 (TKK3450/3850形 共通)

### 10. YS-T1台車を組み立てます

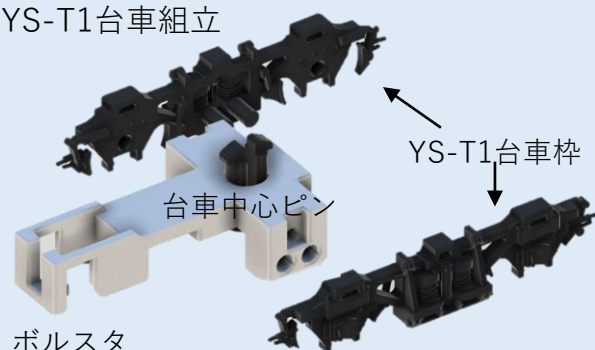
台車枠はボルスタに差し込むので、取付足を残してランナーから切り離してください。

ランナーから切り取った台車枠をボルスタ側面に差し込みます。緩い場合は接着剤で補強し、きつい場合は取付穴を拡張してください。

社外品のΦ5.6車輪を取付け、台車中心ピンをボルスタの中心穴に差し込み、床板へ押し込んで取り付けます。

カットする際はパーツを傷つけないようご注意ください。

YS-T1台車組立



**!** 差し込み式パーツの取付足を誤って切除しないようご注意ください

### 11. パーツをボディに差し込みます

ジャンパ線を取付足を残してランナーから切り取り、ボディ前面の取付穴に差し込みます。

ATS受電器はATS受電器受と組み合わせ、さらに床板に取り付けます。

緩い場合はゴム系接着剤等を併用します。  
(TNカプラーを取り付ける際は使用しません)

TNカプラー等社外品カプラーを使用する場合は、ダミーカプラーもカットしてください。

床下機器(別売・社外品)はゴム系接着剤で床板に接着します。



### 12. ボディと床板を組立て、残りのパーツを取り付けて完成!

ボディ内側の突起と床板側面の欠き取り部とをはめ合わせて組立てます。

動力ユニットも同様に取り付けられます。

最後に社外品のパンタグラフの取付、ナンバーや社章などの表記類を入れて完成です。



**完成!**